

第11回群馬地域リハビリテーション研究会のお知らせ

第11回群馬地域リハビリテーション研究会を下記の予定で開催します。詳細は群馬県地域リハビリテーション支援センターホームページか、関連団体事務局宛のチラシでご確認下さい。事前申し込み受付は平成24年12月19日から開始します。県民駐車場利用の確認のため事前申し込みをしてください。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

【日時】 平成25年1月26日(土) 13:30～17:30(受付 13:00)

【場所】 群馬会館 ホール

【報告】 13:45～14:00 群馬県の地域リハ関連情報

【講演Ⅰ】 14:00～15:30

「笑いを科学的・技術的に研究する取り組み」

講師：目白大学人間学部 野澤孝司 先生

笑う動物としての人間は、頭の中でおかしさやおもしろさの情報をどのように処理しているのでしょうか…。21世紀になってから飛躍的に進歩したハイテク装置を使えば、人の頭の中の活動や働きを外から間接的に観ることができます。さらに最近研究が進んでいる社会神経科学(社会脳)という研究分野では、人の社会性や共感能力などといった笑いの心理的基盤にも関係する対人間の高次脳機能などについても科学的なメスが入り始めています。本講義では最近の海外の研究を含む脳神経科学の画像研究の結果に基づいて、くすぐりやユーモア・ジョーク、笑いの感染やミラーニューロンといった笑いに関連した心の作用に関する脳の機能とメカニズムなどについて、さらにそれらの理論的背景に基づいた工学的応用研究などについてできるかぎり詳しく説明します。

【講演Ⅱ】 15:50～17:20

「インテリアリハビリテーション ～ケアに生かす環境づくり～」

講師：株式会社リハブインテリアズ 池田由里子 先生

インテリアリハビリテーションの概念をご理解いただき、機能性に加えて、楽しく居心地のよい暮らしをサポートできるよう、環境を治療や介護の味方につける具体的な方法をお話いたします。インテリアリハビリテーションを実践した高齢者施設の取り組みや、北欧高齢者施設の様子も紹介しますので、是非参考にしてください。

群馬県地域リハビリテーション広域支援センター 連絡協議会

群馬県地域リハビリテーション支援センター長 山崎恒夫

去る10月5日金曜の夜7時より群馬県庁会議室にて群馬県地域リハビリテーション広域

支援センター連絡協議会を開かせていただきました。同連絡協議会は例年3月に年1回行

っておりますが、今回はいわば臨時の形で開かれました。

開催の趣旨は、多くの施設で担当される職員の方々が世代交代されましたのでその顔見せの意味合い、広域支援センター同士の情報交換の場として、さらに現場で生じている諸問題の把握をさせていただきたいとの考えからでございます。会に先立ち事前にアンケートを各センターに配布し、当日はその説明をいただく形で会議をすすめました。その結果、本来の業務にセンターの業務が時に支障を来している実態、支援センターごとで活動に相

違がある実態などが明らかとなり、また県の方には事務処理や保健福祉事務所との関係について要望が出されました。また、いくつかの支援センターからは事業を円滑にすすめるための工夫等も教えていただきました。

まだまだ克服すべき課題は多いと思いますが、今回いただきましたご意見を参考に、今後の地域リハビリテーション事業を進めていきたいと考えております。各広域支援センターの方々には引き続きご協力のほどをお願い申し上げます。

全国地域リハビリテーション合同研修会 全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会参加報告

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局長 浅川康吉

平成24年7月1日（日）に福井県県民ホール「A O S S A（アオッサ）」にて福井総合病院理事長・福井県リハビリテーション支援センター長の林正岳先生を大会長として「平成24年全国地域リハビリテーション合同研修会」が開催されました。

この研修会は全国地域リハビリテーション研究会平成24年度研修大会、全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会第6回全国研修会、第9回北陸地域リハビリテーション研究会の3つの合同研修会として開催されました。

特別講演は「地域活性化への課題～高次脳機能障害者への支援から見えてきたこと～」と題した福井県高次脳機能障害支援センター長の小林康孝先生の講演でした。この講演では、“見えない障害”であり、医療と福祉の制度の谷間に落ちた“谷間の障害”であるという高次脳機能障害の特質に関するお話と「福笑井（ふくわらい）」という当事者団体の活動の様子などが紹介されました。続くランチョンセミナーでは茨城県立健康プラザ管理者の太田仁史先生より「住民とともに行う地域包括ケアでの介護予防」について講演がありました。団塊の世代を津波と表現し、2015年は年金、2025年は医療・介護、2035年は多死・孤立死の波が来るというお話はとても印象的で、介護予防における住民一特に団塊世代一の活用の意義、必要性を学ぶことができました。

午後はシンポジウム「地域包括ケアにおける地域連携のあり方」が行われ3人のシンポジストが登壇しました。おおい町国保名田庄診療所長の中村伸一先生からは医師としての豊富な臨床体験を踏まえて涙あり笑いありのお話をうかがいました。坂井広域支援センターの田嶋神智先生と福井北包括支援センター長の浅井智恵美先生からはそれぞれの地域支援活動の紹介がありました。シンポジウムを通じて3つの機関それぞれの技量は以前より高まっていることはよく理解できました。これからの課題はこれらを協奏曲のようなひとつのまとまりに仕上げていくことだと感じました。

定期総会はランチョンセミナーとシンポジウムとの間に行われました。23年度事業報告・決算報告、監査報告は滞りなく終了し、24年度事業計画(案)・予算書(案)も原案通り承認されました。24年度の主要事業は第7回研究大会（リハビリテーション・ケア合同研究大会札幌2012年10月11日～12日）の主催と第6回ブロック大会（長崎県内で開催予定というだけで詳細は未定）です。総会ではこの他に役員改選が行われ米満理事長の続投が決まりました。事業計画や役員などの情報の詳細は協議会ホームページをご覧ください（<http://rehasien.com/index.html>）。

（研修会資料は事務局で保管しています。ご覧になりたい方はご連絡ください。）

「介護予防サポーター(上級)の学び直しニーズ」

全県調査ご協力をお願い

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局長 浅川康吉

23年度第2号(本年3月発行)のニュースレターに、藤岡市と沼田市の協力を得て実施した「介護予防サポーター(上級)の学び直しニーズ」パイロット調査について簡単に報告させていただきました。この調査では、上級サポーターのおよそ半分が追加的な研修を希望しており、その内容は下記の通り多岐にわたっていることが示唆されました。

「追加的な研修の要望」の具体例

1.内容面について

- ①他地域の事例などの紹介
- ②サポーター同士の情報交換(体験談などを含む)
- ③講演会への参加
- ④サポーターに対する地域のニーズを知る研修
- ⑤サポーター育成研修で学んだ内容の復習(筋力トレーニングの方法など)
- ⑥新しい知識、最新の情報を得るための研修
- ⑦AEDの取り扱いなど救命救急の研修
- ⑧ストレッチ、準備体操などに関する研修
- ⑨コミュニケーションのマナーの研修
- ⑩筋力トレーニングなどの指導技術のスキルアップのための研修

2.運営面について

- ①個別指導を受ける機会があると良い
- ②定期的に研修を受ける機会があると良い
- ③上級者向けの基本的な資料(教科書)があると良い

上級サポーターはそれぞれの市町村の実情に応じて育成、活用をはかる方針がとられているため、初級、中級のような標準的な研修プログラムがありません。しかし、「介護予防事例集2011」(平成24年3月)の記載事例などをみてもわかるとおり、その活躍ぶりは非常に幅広いものとなっています。

県支援センターとしては、このパイロット調査を踏まえて、今冬に全県の上級サポーターを対象とする本調査(全県調査)を行い、上級サポーターの学びのニーズを把握したいと考えております。幸いなことに住民活動の分析に詳しい群馬大学大学院助教 亀ヶ谷忠彦先生よりご協力を得られる見込みですので、しっかりとデータ解析を行い、サポーター活動の拡充支援に役立つ知見を得たいと思います。

各市町村、各広域支援センターには主にアンケート配布についてご協力を賜りたく存じます。具体的なお願いは12月になってからになりますが、その節はご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

お知らせ 第3回介護予防サポーター交流大会

今年度は介護予防サポーター交流大会開催年度です。近日中に出展団体募集のお知らせをさせていただきます。ぜひご応募ください。

日時:平成25年2月3日(日) 10:00~15:00

場所:スマーク伊勢崎、入場自由・入場無料

お問い合わせ先:群馬県地域リハビリテーション支援センター

TEL/FAX 027-220-8966

リハビリテーション・ケア合同研究大会 札幌 2012

群馬大学大学院保健学研究科 山口晴保

本年のリハ・ケア合同研究大会が札幌コンベンションセンターで10月11日～13日に開催されました。この研究大会は、日本リハ病院・施設協会、回復期リハ病棟協会、全国地域リハ研究会、日本訪問リハ協会、全国老人デイ・ケア連絡協議会、全国地域リハ支援事業連絡協議会の6団体が合同で毎年開催しています。今大会のスローガン「新しい医療福祉介護の連携を目指して一拮げよう繋げようリハケアの輪一」の通りに、多種類のリハ病院・施設に属する多職種が一堂に会して講演受講や研究発表、意見交換を行いました。一般演題は口演が549演題（6会場）、ポスター発表が378演題、合計927演題という大規模な研究会でした。

基調講演は慶応大の田中滋教授の「これからの社会制度改革の方向－社会保障・税の一体改革を踏まえて」でした。地域包括ケアシステムは「要介護を始めとする客観的ニーズを持つ人々の尊厳ある自立を社会が重層的に支援する」という理念の下に、住み慣れた地域（生活圏域）の中で住まいと介護サービスが一体的・連続的かつ継ぎ目のなく提供される仕組みであり、利用者の能力を活用し、自己決定を重視して進めるべきであることを示しました。

筆者は全国老人デイ・ケア連絡協議会と日本リハ病院・施設協会認知症対策検討委員会合同企画の「認知症高齢者を支えるリハビリ

テーションの役割」というシンポジウムで「認知症リハビリテーションの役割と有用性」という講演を行う機会を得ました。日本リハ病院・施設協会が、認知症対策に本腰を入れようと、同協会に認知症対策検討委員会が作られ、筆者がその委員となりました。そして、委員会では認知症リハの啓発活動を行おうということで、その第一弾として講演の機会を得たのです。筆者は1時間熱弁をふるい多くの方に共感してもらえ、来年度の日本訪問リハ協会の全国大会（松本）や全国介護老人保健施設大会（金沢）での講演を依頼されました。リハの分野ではこれまで阻害因子として邪魔者扱いされてきた認知症ですが、これからは「認知症を正しく理解して対応できないと一人前のリハスタッフではない」という時代になっていくかなと感じています。

県支援センター事務局便り (H24. 4～H24. 11)

- 4.13 ニュースレター18号発送
- 6.8 支援センター受託団体である群馬リハネットの第1回理事会にて、平成24年度事業計画報告
- 10.5 群馬県地域リハビリテーション広域支援センター連絡協議会
- 11.12 ニュースレター19号発行

お知らせ

県支援センターと群馬大学大学院保健学研究科による 健康づくり推進イベントを企画しています

群馬大学大学院保健学研究科と県民向けの健康づくり推進イベントを企画中です。はじめての企画で、現在、詳細を検討中です。イベント成功に向けて関係各位のご支援よろしく願いいたします。

日時：平成25年3月7日（木）10：00～15：00

場所：群馬会館、入場自由・入場無料

お問い合わせ先 群馬県地域リハビリテーション支援センター

TEL/FAX 027-220-8966

群馬リハネット理事長就任にあたって

群馬リハネット理事長 高玉 真光

群馬リハビリテーションネットワークは、障害を持つ人々や高齢者が住み慣れた地域でよりよいリハビリテーションを受けられるよう、群馬県内のリハビリテーション関連職・施設・機関などが広く交流し合える組織として、平成13年12月15日に設立されました。当初の加入団体は21、運営設置要綱も決められて、最初に設立記念講演会が開かれました。講師は上田敏先生にお願いし、「ICFとこれからのリハビリテーション」の題でお話をお聞きしました。その時からすでに10年が経過しました。

この間に群馬リハネットは、県より委託され、群馬県の地域リハビリテーション資源調査や「群馬県地域リハビリテーション推進指針」の原案作りを実施しました。また平成16年度には、群馬県地域リハビリテーション支援センターに指定され、現在県内12箇所の地域リハビリテーション広域支援センターとともに、情報交換、

講師派遣、研修・啓発活動や群馬県の介護予防サポーター育成支援など、群馬県での地域リハビリテーション支援体制作りの中核的な役割を果たしてきています。

ことに平成18年から養成してきた介護予防サポーターの初級受講者は6,430名、中級コース修了者は4,413名(平成18年～23年度)となりました。介護予防サポーターたちは、様々なアイディアで運動教室の立ち上げ、予防体操の普及、介護予防教室の支援、認知症予防フェスタ運営、高齢者筋力トレーニング、民生委員を中心とするいきいきサロンへの協力等、各市町村で様々な高齢者の健康を守るための取組みを展開しています。このような県民の健康を守り介護状態に陥ることを予防することに役立つ活動を重ねてきたことは、本当に素晴らしいことと思います。

平成14年に「群馬リハネットニュースレター」が発行されましたが、その中に矢野 亨理事長の優れたお考えが述べられていました。この度矢野先生がご退任になるにあたり、この重責の理事長を私がお引き受けすることになりました。皆様のご協力を得て、矢野 亨先生、山口晴保先生、浅川康吉先生方が築いてこられた群馬地域リハビリテーションネットワークのお仕事がさらに発展し、今までに優るとも劣ることなく活動をしていければと願っております。どうぞよろしく願い申し上げます。



平成24年度第1回群馬リハネット理事会開催

平成24年6月8日(金) 19時から群馬大学大学院保健学研究科大会議室において、群馬リハネット理事会が開催された。県からは、健康福祉部介護高齢課八木次長と、同課 黒沢主幹が出席された。

はじめに、平成23年度県支援センター事業報告・決算報告が山崎支援センター長より次の通りあった。

1)介護予防サポーター育成・活用事例集2011年版発行 2)介護予防サポーターの「学び直し」ニーズについて藤岡市と沼田市への上級サポーター対象調査 3)平成24年3月15日に県庁で開催された「広域支援センター連絡協議会」 4)平成23年12月8日、平成24年3月30日発行ニュースレター 5)平成24年1月21日に群馬会館で開催された、旭俊臣先生、稲坂恵先生による「群馬地域リハ研究会」について報告された。丹下理事より、介護予防サポーターの「学び直し」ニーズについての調査について質疑があり、浅川事務局長より、事例集に活動内容を掲載し、地理的にも離れているため、調査対象とした。2地域の結果には、大きな差が無く、「初級・中級コースを再度受講して、内容を確認したい。」、「AED等の新しいスキルを学びたい。」という意見が多く見られたと説明があり、承認された。

次に、浅川事務局長より、群馬リハネット平成23年度事業報告・決算報告があった。矢野理事長より、「世界保健機構(WHO)協働センターが推進する『Safe Community』』について質疑があった。

浅川事務局長より、安全・安心なまちづくりのための活動を、地域と行政が協働で、継続的に行っている地域のことで、地域リハ研究会では、横浜市栄区の活動内容について講義を行っていただいたと説明があり、承認された。

さらに、田中会計監査担当理事より、事業の執行及び決算ともに適正であったことが、報告され承認された。

次に平成24年度県支援センター事業案・予算案について、山崎支援センター長より、説明があった。新事業として、一般県民向けの講演会を群馬大学大学院保健学研究科との共同事業として、平日に開催予定との補足説明があり、承認された。

次に、群馬リハネット平成24年度事業計画案・予算案について、浅川事務局長より説明があり、承認された。

引き続き、矢野理事長より、理事長交代について説明後新理事長の発議があり、高玉理事が推薦され承認された。新理事長として承認された。交代は、平成24年6月9日からとなった。

以上を持って、議事を終了した。

群馬リハネット事務局便り

(H24.4~H24.11)

平成24年10月現在会員等の状況

* 加入団体 32団体

* 賛助会員 団体会員 2団体

(株)孫の手・ぐんま(旧ハッピーラブハッピー)と、榛名荘病院より賛助会費をいただいております。

* 個人会員 1名

6.8 平成24年度第1回理事会

6.24 ぐんま認知症アカデミー

第7回春の研修会(後援)

11.12 ニュースレター14号発行

編集デスク

山口晴保 清水尚子

山上徹也 角田祐子

発行

群馬県地域リハビリテーション支援センター

連絡先

群馬県地域リハビリテーション支援センター事務局

群馬大学大学院保健学研究科内

Tel/Fax : 027-220-8966

E-mail: tsunoday@health.gunma-u.ac.jp